

活動報告

基礎プログラム

山下 哲也・鈴木真理子



授業の様子

概要

SiEEDプログラムは、アントレプレナーシップの概要と基本的な要素を学ぶ基礎プログラムと、より実践的な各種手法を体験する応用プログラムの二つで構成されている。

2019年度は、岡山大学・大学院全学生を対象とする選択教養科目として以下の4科目を基礎プログラムとして開講した:

「アントレプレナーシップ入門 - グローバル市場における最先端の起業家精神(SiEED入門)」
(一学期 月曜7・8限、一単位)

・ SiEED入門としてアントレプレナーシップの概要と、これを必要とする社会背景について、グローバル市場における最先端起業家を例としてその発想や成長の過程から学ぶ。

「革新的起業と先端技術 - 世界を変えるイノベーション」

(一学期 火曜7・8限、一単位)

・なぜ現代社会においてアントレプレナーシップが求められているのか、その背景を理解するために重要な要素である世界を変える革新技術と、未来の当たり前となるイノベーションの最新状況について紹介し、各自でその特徴を考える。

「アントレプレナーの戦略的思考」

(二学期 木曜7・8限、一単位)

・不確実性が加速度的に増す現代社会においては、未知の環境下で誰もが見過ごす問題を探求し柔軟な視点で効果的な解決策を生み出すことが強く求められる。本科目ではその視点と探求方法の基礎として、「デザイン思考」等に代表されるアントレプレナーの戦略的思考方法を紹介し、演習を通じてそのポイントを体験する。

「アントレプレナーの事業開発方法」

(二学期 金曜7・8限、一単位)

・アントレプレナーシップを有して事業創造・開発をする「起業」には、大別してスタートアップと呼ばれるIDE(Innovation Friven Enterprise)と既存事業を創業するSME(Small & Medium size Enterprise)の二種類のカテゴリーが存在する。両者の特徴・違いを踏まえ、それぞれに適した起業・事業開発の実践的手法を、演習を通じて体験する。

4科目いずれの講義も、教科書に沿ったレクチャー(聴講)のみの構成は避け、各回のテーマ毎に用意した資料をもとに幾つかの質問を提示し、受講生同士の小グループによるディスカッションと、そのディスカッション結果についての全体議論を通じて、自ら「考える」ことを体験することに重点を置いた点が大きな特徴である。

また、各回の講義内容は全て録画し、全内容を岡山大学のYouTube公式チャンネル上で一般公開することにより、受講生だけでなく誰でもその内容を観ることを可能としている。

成績評価

基礎プログラム4科目受講者の成績は、講義への出席と課題レポートにより評価を行った。(出席が無くレポート未提出の履修登録者は評価対象外とした)

アントレプレナーシップの要諦は、多角的に物事を観察・探求し、課題の本質を捉え、実現可能な解決方法を自ら考える点にある。既存の知識や前例は参考となりえるが、一方で過度にそれに依存することは先入観に囚われ視野を狭める欠点があり、時事刻々と技術や市場が変化する不確実性に満ちた現代においては時に足枷となる恐れがある。

各科目の最終レポートでは、このアントレプレナーシップの基礎の理解を測るため、自らの視野を柔軟に変えることで新たな気づきを得て、未知の課題を発見し、既存の概念に囚われない

効果的な解決策を生み出せるかどうかを、それぞれテーマを設定し各自の考えの提案を求めた。

評価ポイントは以下の4点である:

- (a) テーマに応じて自分の考えを提案・展開しているか
- (b) 課題設定と解決策について、求められた検討点を押さえ適切に提案しているか
- (c) 課題探求・設定・解決策に関し、優れた(卓抜した)視点をもっているか
- (d) 論理的に自説を展開・説明しているか

提出された受講生のレポートに対する評価結果から、以下の特徴が認められた:

ほとんどの受講者は論理的な自説展開が出来ている

自分なりの考えをまとめ提案・展開出来ている

課題探求の視点が固定的で、深さも十分ではない傾向が強い

予想外・卓抜した視点や考えの提示は少数であった

レポートの評価を通して感じた点は、高校までの基礎教育を通じて、論理的な自説展開の基礎力は養われていると認められる一方、従来の平均的な視点を疑念なく受け入れている傾向が強いという点である。受講生の皆さんには、今後アントレプレナーシップを高め、未知の社会で活躍するマインドセットを涵養してゆく上で、当たり前だと思っていること、そして世界のあらゆるものに対して、なぜそうなのか?という疑問と好奇心を常に抱き、様々な角度から(特に反対の視点から)考える習慣を持って欲しいと願っている。

SiEED授業の特長と実績

①反転学習

反転授業とは、ICT環境を利用した新しい教育方法の一形態である。従来、教室で行われていた「知識伝授」の要素を予習ビデオ教材として受講者が自宅にて視聴することで、講義前に知識を習得する。そして、不明点を情報収集し、疑問点を纏め、ビデオ内で出された問いについて思考する。対面教室では、ディスカッションやグループワークなどの能動的学習（アクティブ・ラーニング）を展開し、他者や集団との対話的・協働的な学びから知識を咀嚼し、深い思考力、判断力、表現力を養う。

初年度である2019年度は、教室での講義を全て録画し、ビデオ教材として編集、全内容を[岡山大学のYouTube公式チャンネル上で一般公開](#)する作業を実施した。

②オープンなプログラム

講義はオンライン・オフライン共にオープンな参加環境を提供し、岡山大学の学部生だけではなく、大学院生、教職員、他大学の学生や全国の中高生、行政や企業の社会人まで対象としている。

今年度、講義内容は全てインターネットで公開し、世界中の誰もがアクセスできる環境を整えた（日本語のみ）。教室での講義も、今年度は"無料で出席可"と広報したところ、毎回2～10名程度の大学院生や社会人、時には高校生も参加した。受講生からは「異なる年齢層の意見を聞くことは、違った観点、視点に気付かせてくれる」「社会人とのディスカッションが刺激的だった」と、大変好評であった。

③先駆者との対談

各テーマに応じて、様々な分野で活躍する起業家、リーダー・イノベーターを招聘し、直接対談する機会を設けることも、SiEEDの大きな特長である。今年度の授業では、2学期科目の「アントレプレナーの戦略的思考」に2名、「アントレプレナーの事業開発方法」に3名のゲスト講師を招聘した。



7月11日 木田 泰夫氏（元 Apple Inc.）



8月1日 穂積 大陸氏（IntraHealth International）



7月12日 大津 愛氏 (株)COMPASS)



7月19日 吉崎 浩一郎氏
(グロースポイント・エクイティLLP)



7月26日 川原 大樹氏 (株)KURASERU)

④EdTechの積極的活用

驚異的な加速度で進むITイノベーションの波の中で課題解決に取り組むアントレプレナー／イントラプレナーは、ICTを積極的に取り込み、使いこなし、開発をも躊躇しないマインドが必要である。

まずは授業でのICT活用が当たり前の感覚になるよう、今年度は下記を利用した。

- moodle・・・岡山大学で採用している学習管理システム。講義資料の配信に使われることが多いが、それ以外の機能も積極的に利用した。出欠管理機能、アンケート機能、レポート収集機能、グループ演習機能など。

-
- [Sli.do](#)・・・質問受付アプリケーションソフト。ゲスト講師の回に利用した。日本人学生はクラス内で手を挙げて質問するのを躊躇うことが多いが、Sli.doを利用すると、スマートフォンから匿名で質問を入力できるため、驚く程の数の質問が寄せられた。
 - [YouTube](#)・・・授業動画配信用。欠席時の補講、期末レポート作成のための復習教材として、多くの学生が視聴していた。

受講生の声

- 起業することに関して普段聞けないようなリアルなことが聞けたので、興味深く、とても貴重な意味のある授業でした。
 - 正直なところ大学の授業でお金や仕事の話にしっかり突っ込んで新しい技術のことを聞く授業は今まで受けたことないので、新鮮でとても面白かったです。
 - 最初は単位取得のために履修登録をしたが、授業を受けるにつれ、学びが増えていくのが楽しみで、とても良い木曜七八限を過ごすことが出来た。
 - 一般教養の講義では最高に面白かったといっても過言ではない。
-